

研究の概要

20 23 年 5 月 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	胚生検が妊娠予後にもたらす影響
代表研究者 (所属・氏名)：	生殖技術部門 山本 桜子
研究の目的：	近年反復不成功・流産患者や染色体構造異常患者に対しての Preimplantation genetic testing for Aneuploidy (PGT-A)、Structural Rearrangements (PGT-SR)の実施件数が増加している。PGTでは胚盤胞から5-10個程の栄養外胚葉(TE)細胞を生検する解析方法が主流であるが、胚生検が出生児へもたらす影響は未だ分かっていない。そこで本研究では、生検胚を移植した際の予後を後方視的に検討した。
調査データ該当期間：	20 13 年 6 月 1 日 ~ 20 21 年 12 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	2013年6月~2021年12月に、同意を得て一般体外受精または顕微授精施行後胚盤胞まで培養しPGTを行い正倍数性またはモザイクと判定された胚を単一胚移植し、出産した61名(生検群)を対象とし、2021年1月~2021年12月に胚移植をし、出産した391名(非生検群)と比較した。検討1では移植時年齢、出産週数、出生児の身長・体重、胎盤重量、出産時の妊娠時合併症及び分娩時合併症(産科合併症)と出生児の異常を比較した。検討2では生検群を採取細胞が5~7個の群(poor)と8個以上の群(rich)に分けて、検討1と同様に移植時年齢、出産週数、出生児の身長・体重、胎盤重量、出産時の産科合併症と出生児の異常を比較した。
個人情報の取り扱い：	研究に用いる患者個人情報の保護、プライバシーの尊重に努力し最大限の注意を払います。患者試料を分析する際には、連結可能匿名化を行います。また試料の分析から得られる情報についても、厳重な管理とセキュリティ体制の整備を徹底し、連結可能匿名化を行い符号のみで取扱いますので、個人情報は伝わりません。
本研究の資金源 (利益相反)：	利益相反状態はありません。
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	IVFなんばクリニック 06-6534-8824 生殖技術部門 山本 桜子
備考	